



第 100 回講演大会を迎えて

会長 武 田 喜 三

日本鉄鋼協会第 100 回講演大会を迎えるに当り一言ご挨拶を申し上げます。

本会が創立 10 周年を迎えた大正 14 年 10 月に記念行事の一つとして第 1 回の講演大会が開催されて以来、回を重ねここに第 100 回大会を近代製鉄所発祥の地である北九州地区において迎えることができますことは、衷心より喜びといたすところであります。

顧みまするに、この半世期有余の間は、わが国にとつて激動期とも言える波乱に満ちた時代でございました。すなわち昭和に入つて間もなく次第に軍事色が強まり、日中間の不幸な事変がつづき、ついに太平洋戦争にまで発展し壊滅的な打撃を受けて終戦となりましたが、その荒廃の中から立ち上つて今日、経済大国といわれるほどの隆盛を見るに至つたわけでございます。

鉄鋼業におきましても、ご承知の通りわが国の基幹産業として揺ぎない今日の地位を築き上げてまいりましたが、ここに至るまでの先輩諸兄のたゆみない研鑽と努力には頭が下る思いがいたします。本会会誌「鉄と鋼」を紐解き、講演大会の変遷をみまするに昭和 20 年は不幸にも一堂に会することができませんでしたが、昭和 21 年にはあの荒廃の中にもかかわらず、講演概要を手書きのガリ版刷りで作り第 32 回大会が開催されており、この様な努力が実り今日では、第 1 回大会の 14 テーマに比べて広範な内容に亘る年 1200 テーマを数えるに至つております。これをみますると当講演大会は鉄鋼に関する研究ならびに技術の研鑽の場として、又全国の研究者、技術者の交流の場として活潑に運営され、鉄鋼業発展の一翼を担つてきたと言つても過言ではありません。

しかし最近の内外情勢をみまするに、ニクソンショックに始まり、環境問題、オイルショック、貿易摩擦、更に第 2 次オイルショックと厳しさは加速的に日本鉄鋼業を覆い始めております。今日までのわが国鉄鋼業は幾多の難問を研究者、技術者の力を結集し克服してまいりましたが、更に資源、エネルギーに関する対応技術、省力化を目的とした総合的なハードウェアの開発、改善、ならびに新製品の開発等問題は山積されております。

ここで我々は、諸先輩が築き上げられた世界に誇る技術を糧とし、需要サイドのニーズ変化を十分見極め、適応力のある技術を確立し、ひいては真の技術集約産業としての鉄鋼業を発展さすべく努力することこそ、この 80 年代に果せられた義務であると考えます。

この第 100 回大会を一つの基点として、心を新たに会員各位が目標に向つて尚一層の研鑽と努力を重ねられんことを祈つております。

最後に、本第 100 回大会記念誌の編集、刊行に際し絶大なるご協力を賜わつた各位に対し、深甚なる敬意と謝意を表します。